

行政調査報告書「経済福祉常任委員会」

平成 24 年 7 月 18 日(水)～20 日(金)

■青森県田舎館村「田んぼアートについて」



田舎館村の田んぼアートは平成 5 年、手作業で稲作りを体験するイベントとして、色の違う稲で稲文字を描いたことから始まった。今では、図柄が細かく遠近法を用いるなど、芸術性も高くなり、難易度の高い技術が駆使されている。毎年多くの参観者が訪れ、最近では海外メディアも取材に訪れるなど、小さな村が大きく注目され、地域活性化に貢献している。

本市の田んぼアートは生産者と消費者の信頼関係を築くことを主に目的としているが、観光という観点で田舎館村の田んぼアートは好例であると感じた。

■宮城県仙台市「私立幼稚園を含めた民間資源の活用による待機児童対策の推進について」

仙台市では、就学前児童数が減少する中、保育需要は増加を続けており、平成 20 年 4 月には、保育所入所待機児童数は、政令指定都市の中で最も多い 740 人となった。このような背景の中、仙台市は、公立よりも私立の保育・幼稚園が多く、民間資源を活用した待機児童対策を進めている。「せんだい保育室」は、市が国の基準を上回る独自の基準を定め、それらの基準を満たす施設を認定し、運営経費の助成をする認可外保育施設であり、認可保育所に近い保育サービスを受けられる。また、平成 24 年度からは、預かり保育を認可保育所と同程度の開設日・時間で実施し、また、利用料を月額 5,000 円以下とする認可外保育園に対しても、市からの補助を拡充した。



本市では、待機児童を実質抱えていないが、希望した園に入所できない等の問題があるので、保育利用者の選択の幅を広げられるよう、仙台市の取り組みを参考にしていきたい。

本市では、待機児童を実質抱えていないが、希望した園に入所できない等の問題があるので、保育利用者の選択の幅を広げられるよう、仙台市の取り組みを参考にしていきたい。

■農業組合法人宮守川上流生産組合（岩手県遠野市）「非農家出身者をも巻き込んだ『一集落一農場』の実現をめざすむらづくりについて」



宮守川上流地域は、中山間地特有の地形で、小規模経営農家が大半であり、大型機械の導入も難しい小区画のほ場が大半であり、農業育成の妨げとなっていた。このような状況の中で、ほ場整備事業をきっかけに、一集落一農場構想について合意形成がはかられ、宮守川上流生産組合が設立された。

組合は、環境部会、グリーンツーリズム協議会や J A 生産部会などと連携・協力しながら、農作業の受託、新たな特産品づくり、働く場の創出等、活力あるむらづくりの実現に向けて活動していた。また、高齢化や後継者不足などの問題を解決するために、若者が安心して農業ができるよう、労災・雇用保険への加入、最低賃金保障制度の導入、健康保険・厚生年金への加入など、生活基盤のさらなる向上に向けて、積極的に取り組んでいた。